

愛媛大学農学部附属演習林の近況

愛媛大学農学部附属演習林では多くの人工林が植林後50年を経過しており、皆伐もしくは収穫間伐の適期になっています。そこで、自伐の生産性を上げるために2020年9月にウインチ付きグラップルを導入しました。これまでは実習等で間伐した丸太は小型移動式クレーンで積込みしていましたが、グラップルを使うことにより積込みの作業効率が飛躍的に向上しました。今後は、これまで森林組合に委託していた皆伐作業を技術職員でおこなっていく予定です。

皆伐後は主にスギを植林していますが、年々シカとウサギによる食害が増加しています。林道を車で走っているとしばしばシカを見かけますし、秋には事務所の裏でもオス鹿の鳴き声が頻繁に聞こえてきます。また、林内の岩場以外の場所では草本やササを見る機会がほとんどなくなりました。2016年から植林地の周りには防獣ネットを張っていますが、ネットに慣れてきた動物に破られて大きな穴が空くようになってきています。そこで、今年度からはネットの下部50cmに亀甲金網を設置して対策しています。今後は新しい対策による防獣効果を観察しつつ、捕獲による頭数管理にも努めていきたいと考えています。

当演習林では6年毎に基本計画を作成し、その計画に基づいて研究や施業をおこなっています。そして2021年度は6年計画の最終年ということもあり、次の6年間にに向けた体制の見直しをおこなっています。その中のひとつに安全管理があります。まずは事故発生時の救急体制について、事故発生からの行動の流れ図にまとめ、診療する医療機関と利用の考えられる交通機関の再確認をおこないました。次に連絡体制について、実験林内では通信ができない箇所が多いため、衛星電話の導入を検討しています。

また、林道にある橋の劣化状況について、演習林内にある5つの橋のうち、3つについては橋の裏のコンクリートが剥がれ落ちて鉄筋が剥き出しになっていることが確認されました。演習林の入口手前にある共用の橋が綺麗に更新されていることと照らし合わせると、演習林内の橋も更新時期にきているのではないかと考えられます。これらの橋の安全を確保するために、早急に補修等の対策をおこないたいと思います。

最後に、演習林を利用した学内外の活動についてです。コロナ禍により学生実習では宿泊を伴う実習はできませんでしたが、日帰りではほぼ同じ内容の実習をおこなうことができました。外部の利用や各種イベントではキャンセルせざるを得ない場合があります。演習林での活動は比較的密にならないため、状況が許すようになれば、学内外の方々に演習林を広く利用してもらえるようにしていきたいです。



写真.1 ウインチ付きグラップル



写真.2 シカによる皮剥ぎ被害